

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 第一中学校保護者対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年11月24日（日曜） 17:00～18:30
場 所	第一中学校 被服室
出席者	辻学校教育部長、市瀬学校教育部参事、小野寺教育総務課長、島本学校教育部主幹

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 まず第1点目、信じられないっていうのが率直な意見。56学級、これ、地域の方にどう説明したのか。通学区を変更なしで対応というのは、地域の皆さんが通学区を変更しないでくれという要望があるからという、教育委員会の責任逃れにしか思えない。教育環境をプロとして考えている教育委員会が、責任放棄しているようにしか思えない。56学級の小学校なんて造っていいのか、辻部長。地域の方に学校教育法の話はしたのか。適正規模の話。法律で示されている基準は18学級ではないのか。統合校入れても24学級ではないか。学校教育法の話をしたのか。

日本で一番生徒数の多い学校、当然御存じだと思う。日本で一番生徒数の多い小学校。神戸である。ここが1,600人、日本で一番多い学校でも。この1,600人の学校でさえ、来年度から分校になる。1,600人の学校なんてあっちゃいけないということで、来年度から分校になる。2番目は、これもマンモス校で話題になっているけれども、西船の葛飾小。それでも1,450人程度だったと思う。それを考えたときに、谷津小を2,000人にするのか。日本中の笑いものにならないか。そんなことで習志野の名前を売りたいのか。おかしいじゃないか、教育者として。津田沼小が新築になったよね。一般教室、確か24学級だと思うけれども、学校教育法の基準値の中での新築学校をつくったよね。これ、56学級で国のほうに谷津小の新築を案として出したのか。56学級の小学校の校舍を造ると。補助金の話、打診したのか。56学級の小学校の建築で、国は「うん」と言わないのではないのか。

まだある。今、習志野市は地域を中学校区で見ている。こども園構想もそう。今度、幼稚園・保育園、これの園区の地域も中学校区という見方をしているよね。そういった中で、同じ中学校区、同じ町内に2,000人と200

人の小学校つくるのか。おかしいことだらけじゃないか。矛盾だらけじゃないか。教育者としてどうなのか。地域の方が学区変更するなという、それに迎合して、そのようにしましたっていう言い方するのか。これは納得できない、私は。地域にどこまで説明したのか、学校規模に関して。地域の方が2,000人の学校がイメージできるのか。大学じゃないんだよ。

回答者 まず、今この内容で御説明した話は、まだ地域には話していないということが一つ。地域の皆さん方には、その学校規模という部分については、今ある施設のキャパの限界というような形の中でお話をさせていただいた。ただ、一方、国におけるという部分についても、統制のとれた中ではないが、お話をさせていただいた。

ただ、通学区域を変更しないでくれというような地域の皆さんの声、これに対して我々は迎合したということではなくて、谷津と奏の杜地域の中の声の一つとして、最終的にこれからも奏の杜には子どもたちが入ってくるというような中で、通学区域を変更するよりは、今回、56という批判を受けるけれども、そこで受けとめさせていただくということが、子どもたちにとってよりよい成長に大きく寄与するということで整理をさせていただいた。

それと、2点目、56学級規模の国の補助金の話だが、この補助金の話については、まだ正式に県にお話はしていない。ただ、こういった状況での補助金の獲得に関して、去年の段階で、一度、県に行っている経過はある。そういう中で、現在、学校施設については、届け出制であるので、この方向でいく場合については、再び、千葉県と協議をさせていただく必要があると考えている。

それと、3点目が2,000人と200人というところであるが、結果として、現段階で通学区域は変更しないということにより、現在の推計上、2,000人の規模、一方、向山については200人というところではあるけれども、仲よし幼稚園跡地の売却によってできる44階建て、ここからの子どもさんについては、仮に向山小ということになれば、400人強の児童数になってくるのだと思う。谷津小の規模が突出してしまうというところはあるけれども、第一中学校区の中での連帯という部分において、何かしら取り組まなければならないのだらうなというように考えているのが現在のところである。

回答者 おっしゃるように、56学級の教育活動がどのようなものになるのかと言われたときに、教育者として、本当に心配は心配である。これは部長としてというよりは、教育者の1人として。ただ、この地域の中で子どもたちをど

のように成長させていくのかということ考えたときに、やはり隣は、200人というのはオーバーなので、300人弱ぐらいは向山小学校もいるわけで、そういう300人弱の学校と、今後増えていく、今でも900人ぐらいは谷津小学校にはいるので、900人の学校があるということの子どもたちの数の格差は確かにあるし、これから56学級運営していく中で、どういう学校経営になっていくのかということを中心に心配しないわけではない。ただ、その中で、子どもたちにとっていい教育活動ができるように、こちらとしては施設面だとか、そういうものをできるだけ配慮していくような方向で学校運営、また教育活動ができるようなサポートをしていき、それぞれの学校で特色を持った教育活動をしてもらいたいと願っている。56学級って、本当に自分も経験したことがないので、どういう学校経営になるのかということは、自信を持って大丈夫ともなかなか言えない。ただ、その中でやっていくという想いでやりたい。答えになっていないけども、この地域の中で、谷津地域の子どもたちも奏の杜の子どもたちも一緒になっての教育活動が一つの学校でできるということを、教育委員会としては選択したというように御理解いただけたらと思う。

質問者 全然理解できない。子どもたちにより良い教育環境がどうあるべきかを、一番に書いているじゃないか。教育委員会は大人の都合で学区を変えない。2,000人の学校にすることの、どこが子どもたちにより良い環境なのかと。逆だろうと。地域、奏の杜と谷津の云々っておっしゃっているけれど、市として、地域の線引きは中学校区で見ているじゃないか、今。なぜ谷津の地区だけ小学校区で線を引くのか。今、市内どこでも、就園前児童から何からの子ども園構想もそうだし、全て中学校区で地域を見ているではないか。何で谷津だけ、谷津の第一中学校区だけ小学校区で線を引くのか。信じられない。2,000人の学校、それは辻部長は経験がないって、当たり前だよ、日本にそんな学校ないのだから。2,000人の学校規模で運営している学校を参考にしましょうといったって、研修に行きましょうといったって、そんな学校はない。そんな危ないことをするのか。どちらが危ないのか。冷静に考えてほしい。

回答者 2,000人の学校というと、想像もつかないような感じであるが、これで行くということになったら、市はもちろんのことだが、地域、それから、学校とも連携して、本当にいい環境をつくるために一生懸命考えながらやっていくしかないかなと。これから何年かあるので、皆さんでタッグを組んでやっていきたいというのが、習志野市教育委員会としての思いである。

回答者 確かに今おっしゃったとおり、推計上、最大で56学級という数値がある。その中には御説明の中でもまだまだ不十分なのかもしれないけれども、特別教室等の配慮であったり、そういった形の中でしっかりとした教育活動をつなげていきたい。あるいは教員を市費負担で配置をすとか、そういった中で精一杯の努力は教育委員会としてもしていきたいと考えている。なかなか全てにおいて御納得いただけるような案ではないのかもしれないけれども、そういったことから御意見を伺いたいというところである。

質問者 正直言うと、2,000人の学校というのは考えられない。土地的な原因があるのであれば、その法律を改正するとかできないのか。平成41年には35学級に戻るわけだから、せいぜい10年ちょっとの間であれば、その間だけでも新しい学校をつくるとか、教育環境が余りにも悪過ぎると、みんな谷津ブランドみたいなやつで谷津小学校がいいと言っている方が多いのかなと思うけれど、逆に教育環境が悪化して、悪い見本にもなりかねないという気がする。

なので、本来であれば新しい学校の計画をしなくてはいけなかったものがないから、無理やり谷津でやるんだというようにしかどうしても聞こえないので、今の環境という面で考えれば、もう一度何か別の方法を考えるというのが、子どもたちのためになるのではないかなと思う。

回答者 確かにこれまでの説明会の中で、新たな学校をというお話、近隣公園用地の中で学校建設できないのかというお話は他にも伺ってきた。今回、この開発行為をかけた時点において、千葉県の実業認可というものを受けている。その中で、開発地域においては、その法律の中において一定の緑化を図らなければいけないということで、近隣公園を設置するものである。そういったことからすると、その用地には学校をつくることはやはりできないということ、私どもでもわかったところではある。

そのような中で、まずは教育委員会として今回改めて御提示をさせていただいたという案というのは、やはりこの地域のつながりを考えた場合については、一つの対策として、通学区域の変更をしない形の中で取り組まさせていただきます。とはいっても、どのような形で子どもたちの教育確保といったときには、例えば、谷津小学校についても、将来的には建物を改築しなければいけない。それについては、改築させていただきながら、狭隘するグラウンドについても、近隣公園用地をグラウンド用地として少しでも使わせていただく、このような形の中で考えさせていただいたというところであ

る。

質問者 計画の中で近隣公園をグラウンドとして使用するという案が出ているけれども、では、あそこに仮設校舎がぼんと建って、グラウンドまでみんな歩いていくと。例えば休み時間、中休みとか、そういう中であそこまで5分歩いて行って、じゃあ何分遊べるのかという話もある。時間割の問題もあるのかもしれないけども。そういう環境というのが本当に子どもたちにいいかという、逆に、僕は良くないのではないのかなと。東京都内のように、グラウンドがないのを分かっていて通うのであれば別だけれども。今あるものをどんどん縮小して道を広げるとか、あそこだって本当は僕はやめてほしいと思っている。これから校舎建てるスペースだってなくなるわけだから、今本当にやらなくちゃいけないのか、あの道路の拡張をね。別にあの道路があのままだって、僕はそんなに支障はないと今でも思う。多少渋滞は起きるかもしれないけども。そういう面では、教育環境は地域の連帯とおっしゃっているけれど、何か逆の方に進んでいるようにしか見受けられないような気がする。だから、近隣公園にしたって、例外ってあると思う。だから、交渉してもらおうとか。確かに、法律的にダメだと言われているかもしれないけれども、期間限定だったりだとかいうことが絶対無理なのか。本当に2,000人のマンモス校にするんだったら、まだ、法律を変更してもらってでも、期間限定で変更してもらってでもやるべきではないかなと思う。

質問者 アンケート結果で、学区変更による対応について、「学区変更しないほうがよい」というのが40.5%だが、ただ、「高学年分離をするよりは学区を変更したほうがよい」という方と、「谷津幼稚園を移転するよりは学区を変更したほうがよい」という方と、「学区を変更したほうがよい」という方を併せたほうが多いように思うけれども、どうしても学区を変更しないまま大規模でいくという理由は何か。

回答者 今、御指摘のとおり、アンケートはその結果として、今おっしゃられたところ、トータルすると524ということで、「学区を変更しないほうがよい」というよりは上回るというような状況がある。基本的に、通学区域の変更を行わないということで、現段階、整理をさせていただいたのは、これらのアンケートも参考とした中で、トータル的に判断をしたわけである。繰り返しになるけども、谷津と奏の杜に育つ子どもたちを今の段階から違う学校へという形で区別することが、先行き、子どもたちにとって、成長過程におけるところでの弊害が大きくなるというようなことも勘案し、現在のところで整

理をさせていただいた。

質問者 アンケートの意味がないのでは。

回答者 意味がないというわけではなく、あくまでも参考だということ。また、今回、高学年分離と違う考え方、学校一つの中で56学級という考え方も提示をすることになるので、そうした時に、例えば「高学年分離するよりは、学区を変更したほうがよい」と答えた方々が、その後、またアンケートをさせていただくけれども、そういった中でどのように変わってくるのかというようなことが、このアンケート自体からは明確にとれないということが回答の中身だとは考えている。

回答者 なかなか難しいのは、「学区を変更しないほうがよい」という方よりも、条件がついた中では、「学区を変更したほうがよい」というのもある。教育委員会はグラフをこのまま読み取っているのではない。谷津、奏の杜の地域、そういうことも踏まえた上であり、学区を変更しないとしたことについて、円グラフに書かれていることだけで整理をしたというわけではないということをお理解をいただきたいと思う。言い方が非常に難しいけれども、谷津の子たちにしても、奏の子たちにしても、この地域の中で、共に健やかな成長をしていくことを考慮している。それが56学級なのかと言われてしまうと、なかなか非常に答えづらいが、「いいです」と言えるように私たち頑張っていくということはお答えできる。

質問者 部長ね、今の答弁だと、じゃあ、仲よし幼稚園跡地に建つマンションはどんなのということになる。同じだろう。あそこも谷津である。奏の杜は谷津で、仲よし幼稚園跡地に建つマンションは別だという。奏だってまだ721戸の先行したマンションしか住んでいないよ。これから869戸、その裏にまた大きいマンションが2つ建ってくる。そっちはまだ建築に入ってもいらないようなマンション。仲よし幼稚園跡地と同じだろう。奏の子も谷津の子もコミュニティが創れる教育環境というのであれば、仲よし幼稚園跡地はどうなるのか。全然おかしいだろう、それ。自分で自分の首絞めちゃうよ、部長、それじゃ。

私、本当に一つだけ言いたい。学区って何なのって。何のために学区があるのって。それは安全に通学するための通学路の問題もあるだろう。でも、地域格差をつくらないだとか、学校環境を乱さないために生徒数の平準化だとか、そういうものを鑑みて学区というのは設けられているのではないの

か。未来永劫、学区が変わらないなんてあり得ないじゃないか。何で学区があるのかを考えたのか、教育委員会は。何のために学区があるのって。こういうときのためにあるんじゃないのか。片や、谷津小と東習小以外の小学校はみんな減少だよ、今、少子化で。将来多分過小規模校の問題も出てくると思うけれどね。谷津小が突出して増加だよ。こういう時のために学区っていうのがあるんじゃないのか。それが、先に学区ありきだから、その中では絶対動かさないなんて、それじゃ教育環境を考えた学区の意味がないじゃないか。より良い教育環境を創ろう、学校環境を創ろうということで行政が学区という線引きをしているんじゃないのか。そこの基本をちゃんと考えてもらいたい。

近隣公園に校舎を建てるだとか、いろんな話がいろんなところに出ているけど、まだ区画整理事業の組合も解散してない中で、そんなこと、できないものはできないとはっきり言わないと。もっと言うと、一中学区の地域を考えたときに、谷津の一丁目、五丁目、六丁目、七丁目だけが谷津じゃないんだよ。二丁目も三丁目も四丁目も谷津の地域なんだよ。何で、その地域にブランド化するような学区の決め方にするのか。おかしいじゃないか。何のための学区なのか、何で学区があるのか、しっかり考えてほしい。島本さん、学区って何のためにあるの。

回答者 学区はその教育環境を適正にするというようなことからあり、学区を指定することで、子どもたちの通学する指定校を定めているということは我々も認識している。その中で、谷津エリアについてはもちろん、向山小学区も谷津南小学区も谷津だということも承知している。しかしながら、その学区のありよう、こういったものが今、この習志野市の中で、何ゆえ学区があるのかという、その説明不足というか、土壌というか、そういったところがまだまだこれからやっていかなければいけないのだろうなというように一方では考えている。何で学区があるのというところを地域に住む人々が認識して、その上で普通に学区という調整ができる、そういう環境をつくらない限りは、なかなか難しい状況があるというように思っているのが率直なところである。

そういう中で、今回、現段階において学区調整は行わないとしたのは、やはりそういう様々な要因等をあわせて、歩道、いわゆる通学路の安全上の問題の解決、これが早期にはなかなかできない。できないところに地域の方々の協力といったものが求められない状況の中では、なかなか難しいというようにところも一つある。

学区調整というものができ得る、でき得ないということよりも、我々が主

眼としたのは、谷津と奏の杜、ここの子どもたちにとってどちらがよいかということであり、それらを総合的に判断した結果が、学区変更は行わないということである。なかなか理解いただけないかもしれないけれども、総合的に考えたときに、今、谷津と奏の杜の中で学区調整を行うことが、そこに今いる子ども、これから生まれ育つ子どもにとってよい影響はないというような判断である。

質問者 先ほど成長過程ということをおっしゃっていたので、奏と谷津の小学生が一中に上がったときに分けていたらということでおっしゃったと思うけれども、実際に向山と谷津南小からは、少人数でいずれ上がってくる。谷津小は今の時点でも多いので、一中ギャップという形で、向山小と谷津南小の子が馴染めるかがすごく不安である。それがさらに、人数の差が激しくなる。まして、5・6年生の校舎がここにできたら、6年生はもう勝手知ったるという感じで、我が物顔だろうと思う。そこに入ってきた向山小と谷津南小の子はどうなるんだろうって、そっちがすごい心配。

回答者 そういった懸念はもちろんあるので、学区内の小学校の連携という取り組み、これは並行して、それまでの間には行っていかなければいけないだろうと考えている。

あと、成長過程というのは、一中に上がる以前の未就学のところからの成長過程も含めて、谷津小に通えるというような環境の中で、成長に寄与するというような判断をしている。

回答者 適正規模ということを考えれば、新築をどこかに建てない限り、どこにも行けないのが正直なところである。先ほど 2.2 ヘクタールの近隣公園使ったらどうだと、今までもそういう意見はあった。まず、JRの津田沼駅南口土地区画整理事業というのは、千葉県知事の認可を得て、あそこに土地を持っていらっしゃる地権者の方が組合を組織してなさっている事業である。それで、それをやるに当たって、県から、こういう都市計画をやるよという認可を得てやっていただいている。これはあくまでも地権者の方たちが集まってやっているということ、まず認識していただきたいと思う。

そのような中で、国・県・市が良好な都市環境のために 2.2 ヘクタール、これ緑地にも関係している。緑地が決まっており、2.2 ヘクタールの公園がなければ、緑化率の法律に違反し、この区画整理事業自体が立ち行かなくなる。そういうことから、2.2 ヘクタールの土地には学校を建てられない。また、少し細かいことになるが、あそこに建物を建てることになると、2.2



ヘクタールを約3割ぐらい減歩しなくてはいけない。そうすると、今、公園としては2.2ヘクタール使えるけれども、小学校とか中学校を建てると2.2ヘクタールより約3割ぐらいは減歩され、大体1万5,000㎡ぐらいしか使えないことになる。かつ、今から計画変えるということではできない。国の許可、県の許可も取り消しを認めてくれないし、それから、250人ぐらいの地権者の方の同意を得ることも不可能だと思う。そういう意味で、あそこに学校を建てるとするのは難しい。

また、他に土地があるかということ、どこにも小学校を建てられるような土地がない。適正規模を考えると、本当は学校を新設しなくてはいけないが、それもできないという中で、最初に7案出し、一中に建てようという案もあったが、一中に建ててしまうと、今度、一中の生徒さんに相当負荷がかかってしまう。そういうこともあり、学区を変更しないで谷津小でやっていくか、分離でやっていくかという形で出した次第である。

谷津小は、現在でも校庭が狭くなって大変な思いをしている中で、学校、教員、保護者の皆様、地域の皆様と、どうしたらもっといいものになるかということで、御力、御知恵をかりて、教育委員会としてはより良い環境づくりをしていくのが責務だと思っている。

回答者 昨日は谷津幼稚園と谷津小学校で説明をしてきた。本日は第一中学校の保護者様を対象に説明をさせていただいている。これから、地域の保護者、谷津地域にお住まいの方々、あるいは奏の杜の地区にお住まいの方々を対象に御説明をしていく。今、説明をさせていただいたとおり、教育委員会としては、通学区域を変更しないという一つの方向性を御説明していこうと考えている。会長からも御意見あったけれども、教育委員会としては頭の片隅から一度たりとも、子どもたちのより良い教育環境づくりということは決して忘れることはあってはいけないと認識している。このような中で、どのような形で取り組んでいけるのか、その答えを精一杯導き出しながら対応を図っていきたいと思う。これから地域の方々に御説明をしていくけれども、御意見をいただいた中で、きちんと受けとめながら対応していく。

質問者 中学校に高学年だけ分離をするというのは、これはやっぱり年齢が近いから高学年だけ分離なのか。私は、やっぱり1年生から6年生までが一緒にいるほうがいいと思うし、やっぱり2,000人規模の学校というのは、できればつくっていただきたいと思う。学区の変更が難しい環境にあるというのは、谷津小よりさらに遠い学校に行くから反対されているのか、又は、谷津小というブランドに興味を持たれているからなのかは分からないけれど

も、2,000人子どもがいると、いろんな行事の中で、例えば、今、うちの息子は6年生にいますが、陸上大会なり、ボール大会があって、現に谷津小でも出れない子がいっぱいいる。2,000人になったらさらに出られない。できれば1年生から6年生までを移して、少ない人数でもいい、現に向山小はさんは少ない中で学校としてやっているわけだから。また先になるとまた人数が減ってしまうのかもしれないけども、「第二谷津小」みたいな感じで一つの学校としての運営ができないのか。

回答者 新しい学校を造るって、手続きがあったりもするので、すぐにできるというものではないということが一つと、先ほど参事のほうから申し上げたけれど、新しい学校を建てる用地が、この近隣には今のところない。何処に建てるのかとなると、第一中学校の敷地の中に新しい学校を建てるということになる。中学校と小学校が一つの敷地になる中で、何らかの不具合が出てくるということが考えられる。そうなった時に、その敷地の中で1年生から6年生までがいる谷津第二小学校か、そういうものが中学校の運営を考えると、非常に難しいなというような感じがした。

そこで、PTA会長のほうからも御指摘があるけれども、今回は教育委員会としては学区を変えずに、分離にするのか、同一敷地内での56学級にするのか、どちらにしても分離にしても56学級には変わらない。学区を変えずにやる。ただ、一方、通学区域があって、平準化、学校の格差をなくしていくという平準化を考えていく上では、どうなのだろうという御指摘もあることは確かだと思う。

質問者 辻部長、10年後、教育委員会にいらっしゃる方、何人いるのか。平成35年、島本さんはいらっしゃるのかな。少なくとも部長はいないよね。市瀬さんもいらっしゃらないよね。10年後は多分いないと思う。10年後が2,000人のピークである。だから、ここで軽々しくそう判断されると、私は10年後も死なない限りは谷津の住民である。5年前、私は谷津小の会長だった。パンクしちゃうよ、パンクしちゃうよと。組合の役員だからね。パンクしちゃうよと。特別学級を潰して6学級増やすから大丈夫だと言ったのは教育委員会ではないか。職員用の駐車場に特別教室を造るから、今の特別教室を潰して6学級増やせるからと。そう言ったのは教育委員会ではないか、わずか5年前に。5年経ったら、その時の顔ぶれが、がらっと変わってる。だから言っている。10年後いらっしゃる方はいないのではないのか。それを2,000人の学校造るなんて、今、ここでこんな軽々しく判断しちゃっていいのか。学区の見直しだったら5年、10年かけてやっていけばいい

じゃないか。それまでは選択制弾力地域でいいではないか。収容オーバーしたら、東京や柏かどっかだったかな、抽選のスタイルでもいたし方ないじゃないか。向山と谷津小は一中学区と同じ地域だから。鷺沼小なんか、じゃあどうなっちゃうのか。三つの中学校に分かれちゃうんだよ。あれ、教育委員会どう考えるのか。空白地域作っちゃってるんだよ。地域コミュニティのとれない。それこそ学区の見直ししかかってくるじゃないか、また。あわせて一緒にやればいいじゃないか。ここだけまたそんなテクニカル的に、この場しのぎ的に学区は変えないなんて、すごい大きな責任になるよ、10年後。5年前の比じゃないよ、今度。その時いるのは島本さんだけだから。

回答者 教育委員会にいるかどうかは別として、私はまだ職員としている。今回の問題を大きく取り扱ったのは私なので、その時の責任を問われるという覚悟も当然に持っている。そういう中で、現段階、学区を変えるということについては、やはりうまくないというか、よろしくないというような形で判断をさせてもらった。

ただ、一方で56学級を超えるのか、超えないのかというところももちろん危惧しなければならない。そういうところの取り組みとしては、今後、入居する方々への案内の中で、当然にして谷津小学校の現況と併せて、向山小学校という弾力校の御案内も並行してやらなければならないだろうし、将来2,000人になるという部分についての谷津地域に限らない話であるけども、その学区という部分の理解、認識、こういったものを、表現は不適切だけど、植えつけるというか、そういう取り組みもしていかなければならないだろうというように考えている。

質問者 じゃ、島本さん、10年後も責任を持って、10年先を見据えてということだけど、逆を言うと、私、今の話を聞いていて、全然逆だろうと。多分10年後には同一中学校ぐらいの小学校の自由化というのになっていると思う。同一中学校区内での小学校の選択制っていうのが10年先には、20年かかるかもしれないけど。同じ中学校区内の小学校は選択制で自由化になるんじゃないかと思っている。そうでないと、学校間競争、特色ある学校づくりにならないから。金太郎飴みたいに、どこの学校でも同じようになってしまう形は今では受け入れられないんだから。学校間競争、特色のある学校づくりの中において、同じ中学校区内の小学校は、市民・住民のほうで選択、選べるという時代になっていると思う。それを考えても、逆ではないのか、今のお考えが。だから、それを見据えたら、一中学区の中で向山小・谷津小の選択制自由化というのを取り入れながら、10年先に備えて、10年後からはこうい

う学区の見直しになるよというのを、相応の期間を設けて実施しなければ、パニックになっちゃうよ、今回のこのように。ちょっと視点が違うんじゃないかなと思うけどね。

回答者 10年後、まだ教育委員会にいるのかと言われると、私も10年後は市役所の中では働いている年齢ではある。やはり、今日、説明会の中で教育委員会として一つの方針を決めさせていただいて、改めて皆さんに御提示したということは、大変な重い判断をさせていただいている。

先ほど申し上げたとおり、明日から地域の方々に説明していく中で、御意見をいただきながら、対応を図っていく。

～閉会～